

二宮町「コミュニティバス」及び「デマンドタクシー」の利用状況について

1. 平成 25 年度「コミュニティバス」及び「デマンドタクシー」の利用実績

(平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 14 日まで)

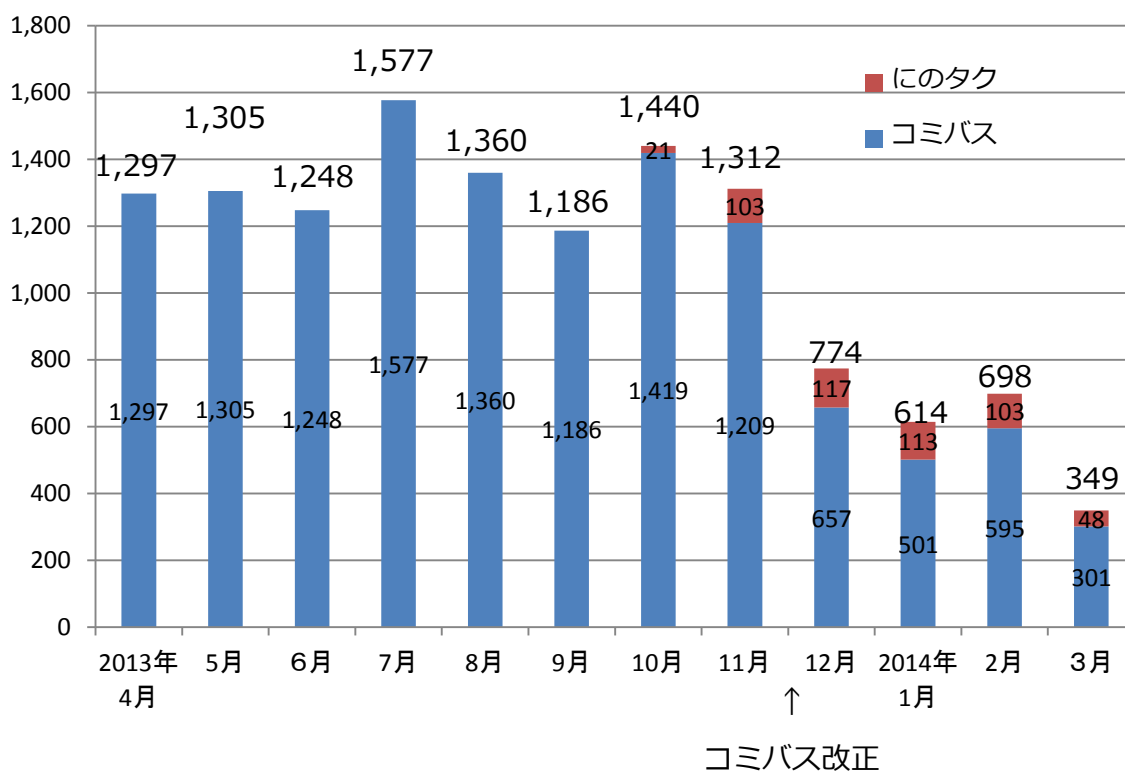
【二宮町コミュニティバス (以降、コミバス)】

- ・コミバスは、平成 25 年 12 月より大幅なルート変更、増便、運賃改定を実施しており、11 月末までは旧運行体系での実績となっている。
- ・旧運行体系での利用者は 1,300 人/月前後
- ・改正後は利用者が半減 (600 人/月前後)

【二宮町デマンドタクシー (以降、このタク)】

- ・このタクは、平成 25 年 10 月 28 日より運行を開始
- ・110 人/月前後の利用状況

図 1 コミバス、このタク利用状況



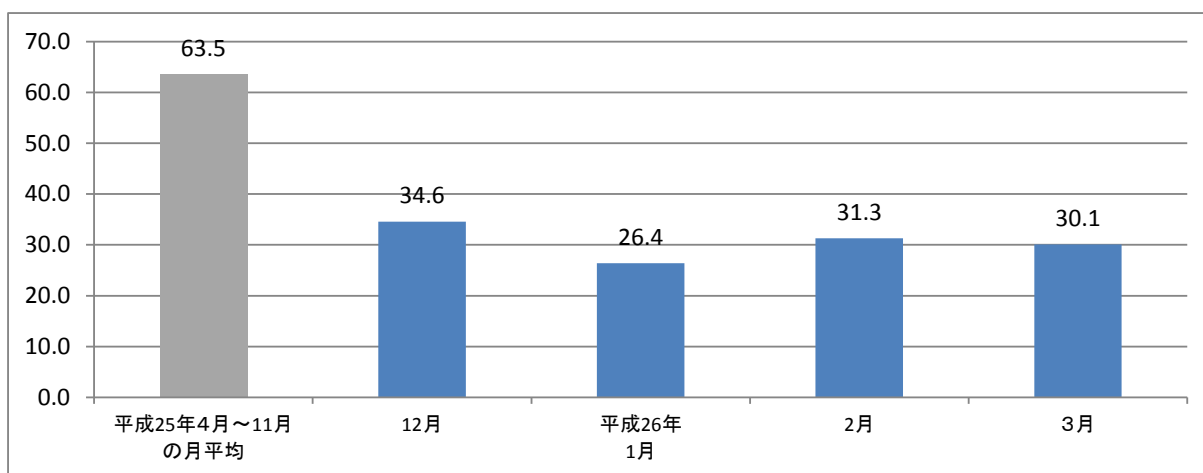
単位：(人/月)
 ※2014 年 3 月は 3/14 まで半月分のデータ

2. コミバス（ルート見直し後）の利用状況詳細

(1) 月別利用状況

- ・旧ルートの一か月平均利用者は 63.5 人/日
- ・ルート見直し後は 12 月 34.6 人/日、1 月 26.4 人/日、2 月 31.3 人/日、3 月 30.1 人/日

図2 コミバス（ルート見直し後）の月別一日平均利用者数（人/日）

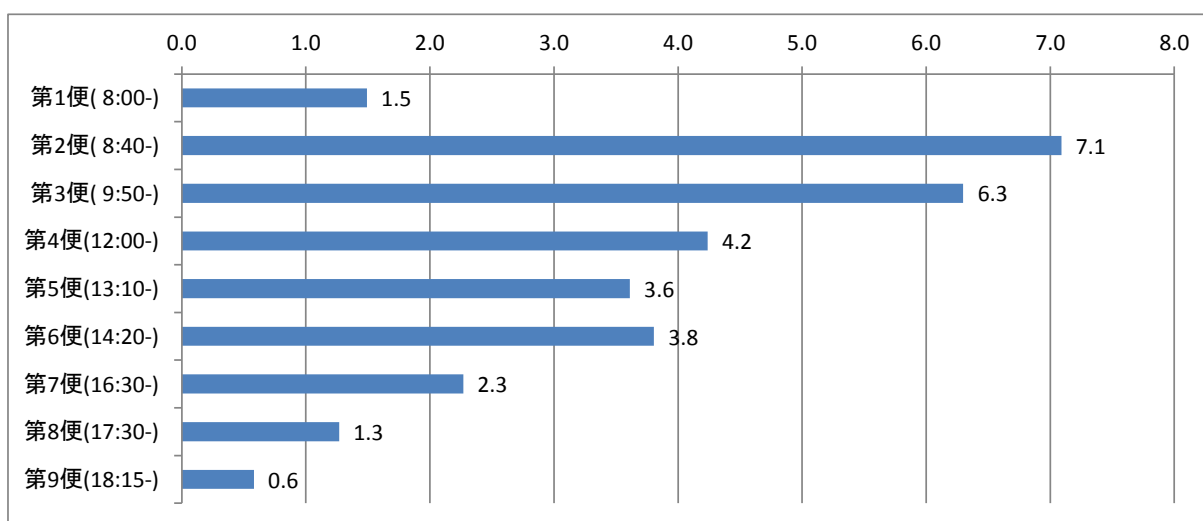


単位：人/日

(2) 便別利用状況（人/日）

- ・第2便（8:40 ラディアン発）の利用が最も多く一日平均 7.1 人
- ・次いで第3便（9:50 ラディアン発）の 6.3 人/日
- ・早い時刻、夕方遅い時刻の利用が少ない（第1便、8便、9便はいずれも 2 人/日以下）。

図3 コミバス（ルート見直し後）の便別一日平均利用者数（人/日）



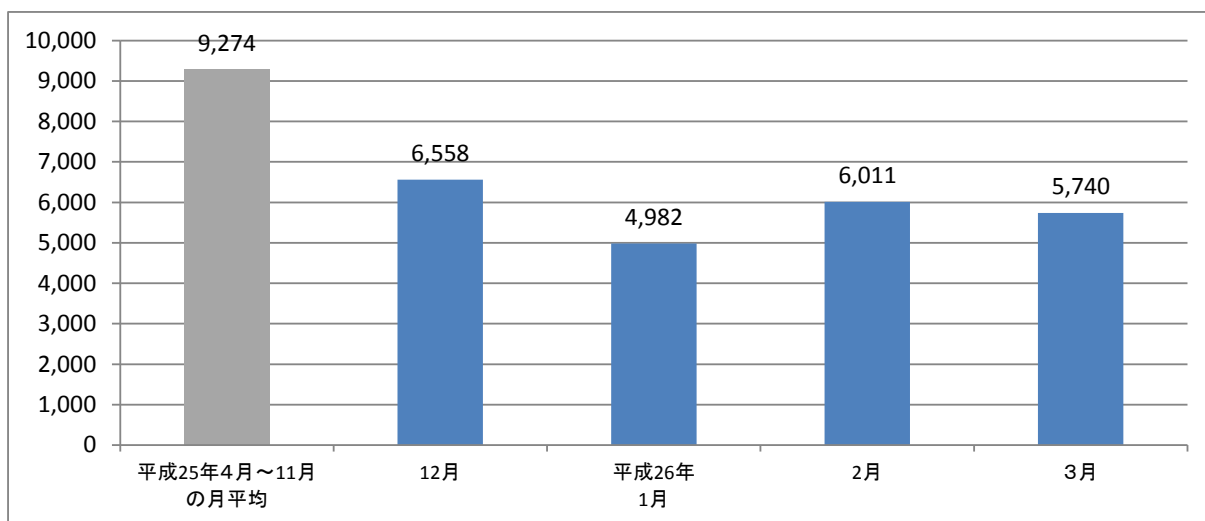
単位：人/日

(3) 月別運賃収入状況と一人あたりの移動に対する町負担

- ・旧運行体系時の運賃収入の一日平均は約 9,300 円/日
- ・ルート見直し後は、約 6,000 円/日

※利用者数は約半数となっていたが、150 円から 200 円に値上げしているため運賃収入は約 2/3

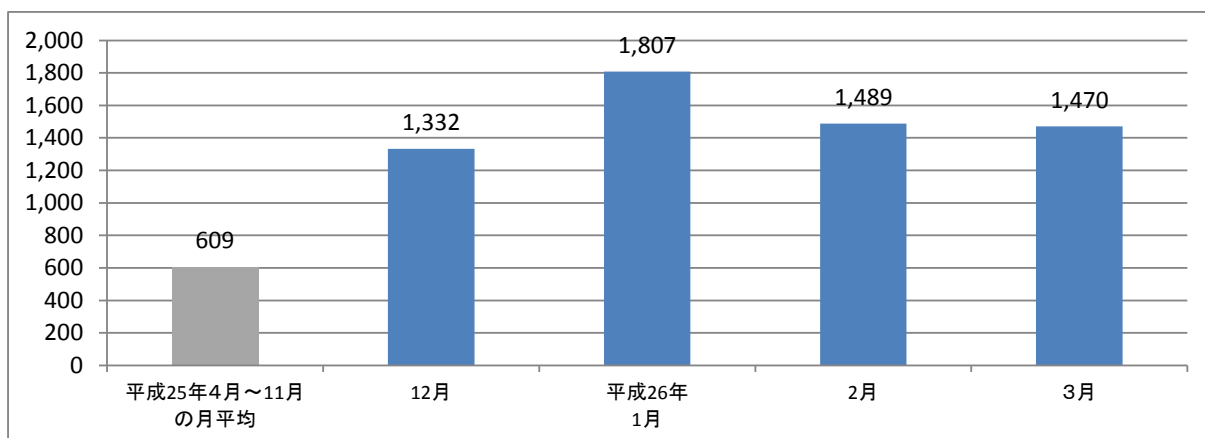
図4 コミバス（ルート見直し後）の月別一日平均運賃収入



単位：円/日

- ・旧運行体系時の利用者1人の移動あたりの町の負担額は約 600 円/人
- ・利用者が減り（運賃収入も減り）、経費はほぼ変わらないため1人移動あたりの町負担額は大幅に増加

図5 コミバス（ルート見直し後）利用者一人あたりの移動に対する町負担額



3. このタク利用状況詳細

平成 25 年 10 月 28 日の運行開始からこれまで（平成 26 年 3 月 14 日まで）の利用状況

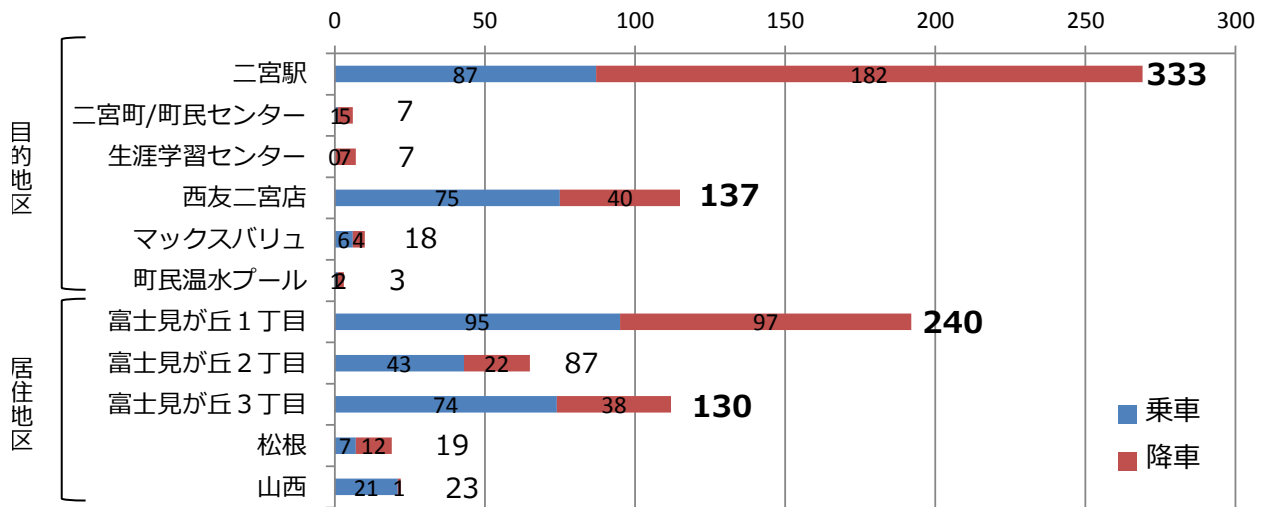
(1) 運行開始から平成 26 年 3 月 14 日までの状況

- 登録者数 **767名** (平成 26 年 3 月 14 日現在 男性 349 名、女性 418 名)
※登録率 20%
※対象地区人口数 3,902 人 (平成 25 年 10 月)
- 対象期間の営業日数 **91 日間**
- 運行回数 **410 回**
うち 1200 円エリア 282 回 (68.8%)
1600 円エリア 128 回 (31.2%)
- 利用者総数 **493 人**
うち 1 人乗車 324 台・324 人 (64.2%)
2 人乗車 77 台・154 人 (30.5%)
3 人乗車 9 台・27 人 (5.3%)
4 人乗車 0 台・0 人 (-)
平均乗車人数 1.23 人/台
- 1 日平均運行回数 **4.37 回/日**
- 1 日平均利用人数 **5.42 人/日**
- 運行費用 **543,200 円**
うち利用者負担額 182,550 円
町負担額 360,650 円
- 1 人移動あたりの町負担額 **約 714 円/人**

(2) エリア別利用状況

- ・目的地区では、乗車、降車ともに二宮駅が最多の **333 人**（乗車 87 人、降車 182 人）
- ・次いで西友二宮店の 137 人（駅では降りる利用者が多く、西友では乗車する利用者の方が多い）
- ・居住地区では富士見が丘 1 丁目が最も多く 240 人
- ・各地区の地区人口に対する利用者数でも富士見が丘 1 丁目が約 21%で最高（富士見が丘 2 丁目 約 6%、富士見が丘 3 丁目 約 18%、松根 約 4%、山西 約 18%）

図6 エリア別にのタク利用状況

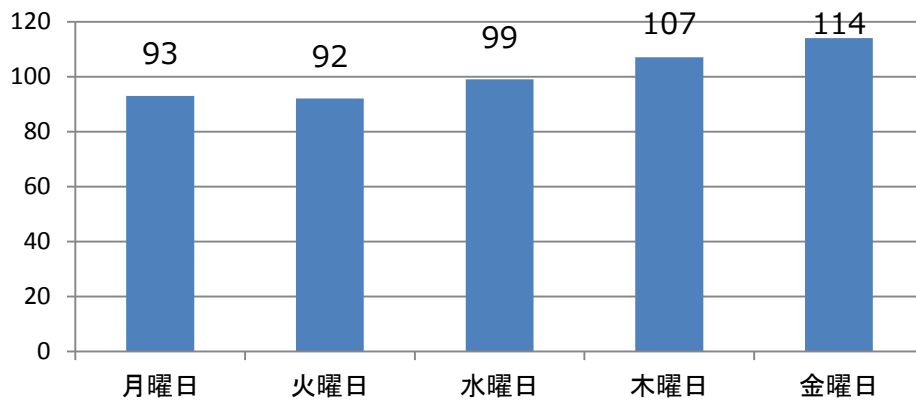


単位：人

(3) 曜日別利用状況

- ・週前半よりも後半に利用者が増加する傾向にある。特に金曜日の利用が最も多く 114 人

図7 曜日別にのタク利用状況



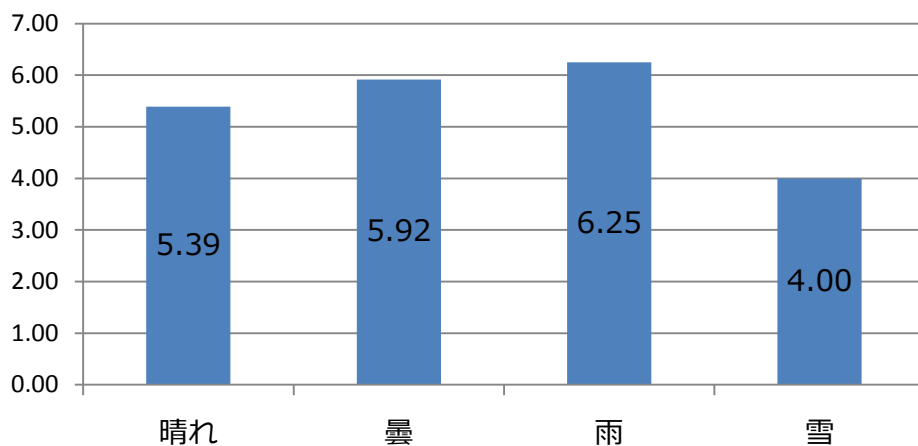
単位：人

(4) 天候別利用状況（一日平均利用者数）

- ・天候が悪い日の方が利用者数が多い傾向にある

※雪の日は2/14（金）の1日のみ。その前週の大雪は2/8（土）。いずれも大雪であったため外出を控える人が多かったのかもしれない。

図8 天候別にのタク利用状況

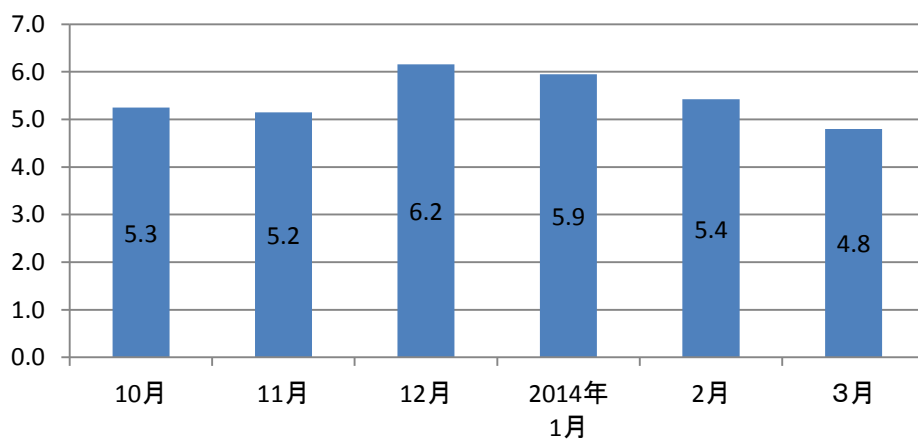


単位：人/日

(5) 月別利用状況（一日平均利用者数）

- ・概ね毎月、1日5～6人くらいの利用
- ・12月の6.2人/日が最も多い

図9 月別にのタク利用状況

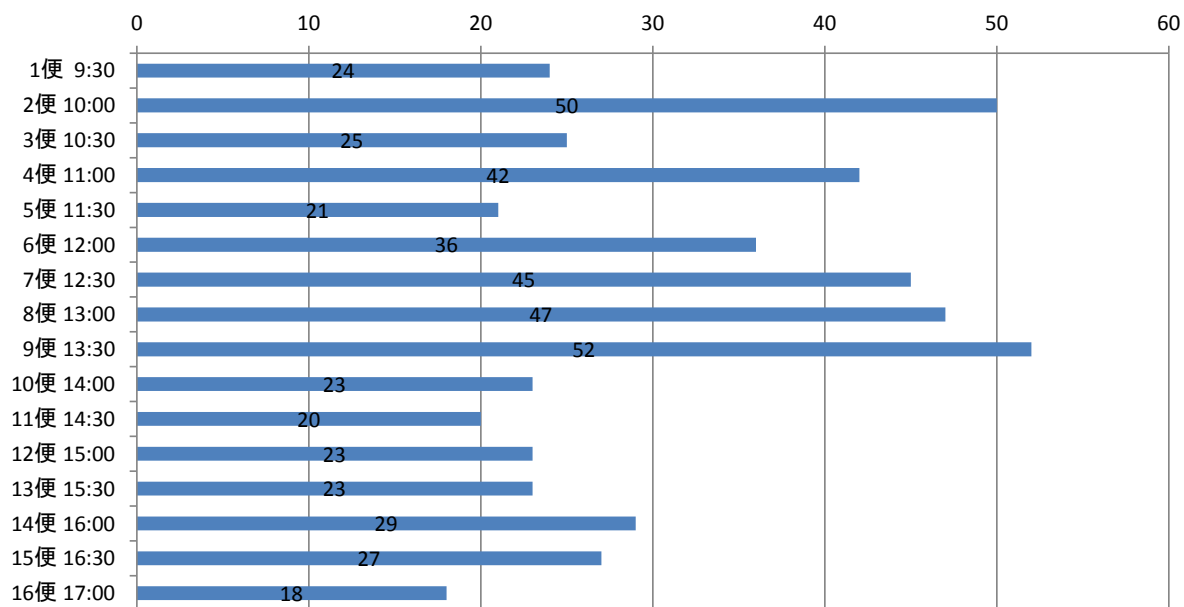


単位：人/日

(6) 便別利用状況 (人/日)

- ・ 第9便 (13:30) の利用が最も多く 52 人
- ・ 次いで第2便 (10:00) の 50 人/日
- ・ 早い時刻、夕方の遅い時刻の利用が少ない (第1便、8便・9便以降はいずれも2人/日以下)。

図 10 便別へのタク利用状況



単位：人

4. 今後の課題

二宮町地域公共交通計画に基づき、以下の通り課題について推進をはかっていく。

(コミバス)

- ・二宮町地域公共交通計画では、利用者人数が 100 人/日を下回る場合は、にのタク等のデマンド交通への切り替えの検討を行う目安、50 人/日以下であればにのタク等のデマンド交通が有利となる目安とされている。現在の利用者数は約 30 人/日となるが、導入してまだ日が経っていないため、利用者促進の PR が必要となる。今後状況が大きく改善されないようであれば、コミバスを廃止し、にのタク等の導入検討を行っていく必要がある。

●コミバスルート沿線住民、生徒への周知を実施

- ・運行開始 3 ヶ月半であり、まだ周知不足となっている。
- ・生活スタイルの変化（転居、転勤、進学など）が多い時期に合わせ周知・PR を実施。

●利用状況を公表し沿線住民とともに存続を検討（※二宮町地域公共交通計画 P34 参照）

- ・コミバス存続のための条件（利用者数、運賃収入等の目標値）を設定し、コミバス車内、町ホームページや広報などを活用して、リアルタイムに利用状況を公表し、利用者及び沿線住民の方々の理解や意識を高めていく。

※相模原市では、コミュニティバスの運行継続条件として、「1 便あたりの輸送人員が 10 人以上であること」かつ「運賃収入が車両償却費等を除いた経常費用の 50%以上であること」に設定し、バス車内掲示や市ホームページで過去の実績を随時更新し、利用状況を公表している。

(にのタク)

- ・二宮町地域公共交通計画では、1 日の平均利用者が 50 人を上回る場合は、乗合促進策やジャンボタクシー、マイクロバスなどによる定時定路線型の「コミュニティバス」への切り替えの検討が必要とされている。現状では、5.42 人/日であり、これまでのコミバスより 100 円ほど一人の移動あたりの町負担額が大きくなっている。経費に無駄がない（利用した分だけ町の負担が発生する仕組み）状況ではあるが、今後はより効率性を高めるため、相乗り促進をしていく必要がある。

●上手な活用方法と PR による利用促進を実施

- ・これまで 2 人以上の乗合となった割合は全体の約 36%となる。この割合が大きくなり利用者が増加する分には、町の負担は大きくならない。
- ・利用者が増えても一人乗りが増えれば、1 人あたりの移動コストは増大し、町の負担が大きくなる。しかし、2 人以上の乗合が増えれば、1 人あたりの移動コストは下がり、利用者も増える。また、事業者の収益増にもつながり、地域経済にも貢献できる。

- ・利用者の生活スタイルに合わせて無理なく乗合を促進できる方法を地域の利用者も一緒に考え、協力していくことが重要となる。

※例) 西友二宮店の利用は、二宮駅に次いで多い。その特長として西友で降車（自宅から西友まで利用）よりも西友から乗車（西友から自宅まで利用）する方が多い。「行き」のそれぞれ離れた自宅からの利用者をまとめることは難しいが、西友からの「帰り」はある程度時間や方向があった人がいれば利用者をまとめることが可能であるかもしれない。このように、予約方法と合わせて、地域の利用者が利用しやすい方法と仕組みを検討し、実践していくことも重要である。

・ 5 今後のスケジュール

●地域住民が主体となる「コミュニティ交通」活性化の仕組みづくり推進

（二宮町地域公共交通計画 基本方針⑤ P26 及び重点プロジェクトC P34 参照）

- ・コミュニティバス・デマンドタクシーを導入している地区では、利用促進に向けた検討を進めていく。
 - ・運行条件の目標を定め、地域の公共交通に対する意識向上を推進していく。
 - ・利用者増加に向けたPR方法の検討を行う。
- ※通年を通し適宜実施をしていく。

●デマンドタクシー運行に対する国庫補助金の活用について

- ・平成26年10月より国庫補助金を活用したデマンドタクシー運行を目指し検討していく。